No.1

連携室だより

第1号

2005.8

目　次

●発行によせて……2

●医療支援部の紹介……4

●お知らせ……5

●医療連携に関するアンケート結果について……6

●新入職員紹介……8

鹿児島市医師会病院

連携室だより第１号発行によせて

鹿児島市医師会病院
院長　**山口淳正**

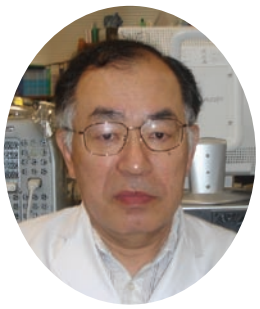
病診連携 会員の皆様へ

医師会病院が発足して21年経過し、また地域医療支援病院として認可されて７年が経過しようとしております。この間、先生方には多くの患者さんをお送り頂き誠に有難うございました。平成17年４月より院長職を拝命いたして、先生方のお役に立とうと一生懸命努力しております。

またこの４月より、当院の組織改変を致しまして医療支援部を独立させました。この医療支援部に関しましては担当者が別途詳細に記述しますので省略いたします。

病院・診療所連携推進事業の本来のあり方は、医療連携と機能分担を進め、効果的な医療供給体制を確立することです。病診連携（広義）とは狭義の病診連携、診診連携やその他のあらゆる医療・保健・福祉関係機関の間における連携を意味するものだろうと思います。最近の医療は非常に進歩し、高度化しております。この様な社会情勢にありながら、患者さんそれぞれのニーズも多様化し、希望される水準も高くなってきております。これらの高度で多様なニーズに、１つの病院、１つの診療所で対応することは困難になっているのが実情です。また一方全ての疾患で、専門医療機関の検査や治療が必要とは限りません。さらに現代では患者さん自身の判断で、自分の必要とする医療を求めて、医療機関を選択することも困難になっております。従いまして病診連携を充実させ有効に活用すれば、患者さんは、かかりつけ医（ホームドクター）にかかるだけで、専門的な検査や治療が必要になった場合に、自分の希望に沿った適切な医療機関を紹介してもらうことができます。さらに検査や治療が少ない待ち時間で、スムーズに、また不都合なく行われるようになると思います。

待機の患者さんにつきましてはこの様な方法でよろしいのですが、救急患者さんについては問題が山積いたしております。患者さんを送られるほうの立場としては２つの種類の送り手があります。一つは中小規模の病院で病床を有し、当該病院で諸々の理由から他の専門医療機関に送らねばならない急患、もう一つは無床診療所の先生方が入院設備のある医療機関へ紹介される場合、更にこれには２つの理由があろうかと思います。その一つは疾病そのものの重症度はさほどでないが然るべき看護力のあるところで観察したいと思われるような場合、２つには高次医療も看護力も必要とする疾患を有する患者さんを預ける場合があると思います。また受ける側の立場で考えますと、専門医療機関と認識されて患者さんを送られた場合は、受ける側の医療機関の力量が十分把握されているのでお互い納得していると思います。問題となるのは無床診療所からの患者さんで高次の医療も高度の看護力も必要な場合です。当院に専門医がいる場合はなんら問題は無いのですが、専門医がいない場合が問題です。その場合は取り敢えず様子見のために預かり、後日しかるべき専門医へ移送する。この場合を私は通過連携と言いたいのです。即ち無床診療所からのある程度重症感のある患者さんの場合は一時預かりで当院に蓄積されている情報を基に然るべき医療機関へ転送することで事なきを得るという方法です。この場合に患者の「たらい回し」と言うそしりを受けるとの意見がありますが、決してそうではないと思います。当病院で救急患者さんを一次預かりの形でワンクッション置き、状態を安定させた後、然るべき医療機関を探してあげるのも又当医師会病院の存在理由ではないでしょうか。ただし時間を争うような場合、例えばクモ膜下出血のような場合はこれには該当しないかもしれません。即ち、これだけ医療が発達しますと一つの医療機関だけで完結することは不可能な場合が発生すると思います。このような場合こそ病病連携を有効に使い、患者さんが余計な回り道をせずに治療できる、即ち地域完結型の医療連携を構築すべきではないでしょうか。先生方のご理解ご協力の程宜しくお願いします。



診療管理センター長
（副院長）**田畑峯雄**

今年４月に鹿児島市医師会病院の組織改革が行われました。その中で最も力を入れているのが医療連携室の拡充だろうと思います。先般会員の先生方への医療連携に関するアンケートで多くの貴重なご意見やご要望をいただきました。これまでの医療連携室の業務は入退院の報告ぐらいで終わっていましたが、今後は診療・入院予約、画像検査予約の調整、空床情報、入院後病状・手術経過報告、転院や逆紹介のサポートを行うなど連携機能の向上に努めてまいります。将来的にはデータのデジタル化により、コピーや画像の袋詰めといった手間をかけずに正確な診療情報を共有できるような施設間のネットワーク化を目指しています。特定の医療機関ではなく、どの病院も診療所も対等な医療連携ができることを願っています。

運営管理センター長
（副院長）**有村敏明**

会員の先生方、この度鹿児島市医師会病院運営管理センター長兼副院長を拝命した有村でございます。「連携室だより」の創刊にあたり、一言挨拶を申し上げたいと思います。先生方もご存知のように、医師会病院はこの４月に組織の改変を行いまして、院長の下２つのセンターを設けまして所謂センター方式にて診療、業務を行っております。

さて、日本の医療制度は今まで医療提供制度と医療保険制度の２つの制度で担保され、この絶妙なバランスの下に国民の健康と生命が守られて来ました。しかしながら、高度経済成長の終焉と少子高齢化の到来によりこのバランスは崩れ、ここ十数年間、相次ぐ医療法の改正と医療保険の制度改革が行われ、この流れは加速度的にめまぐるしく変化しております。提供体制における変化は医療の量から質への転換、病院機能分化、病床の機能分化、連携による効率性と質の確保、インフォームドコンセントに始まる情報の開示と納得の医療など様々な改革が行われています。医療保険制度では平成 15 年の閣議決定に従い、地方の時代の三位一体改革とあいまって高齢者医療保険の独立化、社会保険（政管保険）の全国 47 都道府県の保険者の分割、国保窓口の都道府県における１本化、さらに診療報酬の機能による包括化が推進される方向であります。当然のことながら、我が医師会病院も非常に厳しい経営を強いられております。

この状況を打破すべく、新しい病院の体制を構築しました。特にこの中で医師会病院が強力に推進しておりますのが、先生方の病・医院との連携システムであります。当病院は１昨年 10 月に医療連携室を立ち上げまして、主として入退院の連絡業務を行ってまいりました。今年４月からは運営管理センターでの医療支援部内の医療連携室としてバージョンアップして業務を拡大しております。今までの入退院連絡に加え、入院事前診療録の作成、入院一週間後の病状手術経過の報告、更には後方連携としての逆紹介の推進などを遂行中です。このため、７月より先生方の医療施設を昼間診療の支障にならないような時間帯に訪問しております。先生方の施設の特徴を実際に見せていただき、院長先生を始めとするスタッフの皆様と直に接することで確実な医療連携と大きな心の連携が得られると思っております。

連携室は生まれて間もない不安定な組織です。是非先生方のお力で大きく育てていただければと願っております。連携室の成長に先生方のご指導ご鞭撻を改めてお願い申し上げ「連携室だより」創刊の御挨拶といたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医療支援部の紹介

医療支援部長
宇宿英幸

かねてから、医師会病院の運営について種々ご支援・ご協力をいただき、 深く感謝申し上げます。

さて、平成 15 年 10 月から医師会病院内に医療連携室が発足し、主に患者様の事前診療録の作成や入退院連絡を行ってまいりましたが、本年４月の医師会組織変更により、これまでの医療連携室を発展解消、新たに医療支援部が発足いたしました。部署は新館６階に位置しておりますので、ご来院の際は是非、お立ち寄りください。

医療支援部ですが、医療相談室、医療連携室、医療安全管理室、医療情報企画室、診療録管理室で構成され、有村副院長が運営管理センター長として部を統括、職員 15 人が勤務しています。医師会病院と会員医療施設との連携を強力に推進していきたいとの思いから、医療連携室が中心となり年３回、４月、８月、12 月にこの「連携室だより」を定期発行することといたしました。今回､第１号を発行し、皆様のお手元にお届けすることができました。

編集内容は写真を多用し、新規医療機器導入時の機器紹介、部署訪問、新入職員紹介、各種のお知らせ等を織り込んだ編集を行いたいと考えています。また、院内発行の各種ニュース等も機会があればご参考までに同封したいと考えています。編集企画についてのご意見、ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡いただければ幸いです。皆様の身近な機関紙として末永くご愛読くださいますようお願い申し上げます。

ここで部内をご紹介いたします。

先程も触れましたが、医療支援部は有村副院長が運営管理センター長として全体の指揮系統を統括、さらに日常業務として従来の時間内における各診療科常勤医への急患等の連絡受け入れ体制に加え、医療連携室にご連絡いただいた患者さまの受入れを支援するための当該診療科へのトリアージを行っておりますのでお気軽にご相談ください。

医療相談室

窓口は本館１階右側の救急外来受付で業務を行っています。患者様の医療費・生活費など経済的な相談、福祉制度、退院後の生活、介護問題等の相談などを中心に、患者様の入退院に関する医療施設との連絡・調整も行っております。医療施設で抱えておられる問題などございましたらご活用ください。

室長：武　淳一郎、谷口亀久代、上久木田直美

医療連携室

文字通り、医療施設との機能連携（調査）や、入退院に関する医療施設との連絡・調整、患者満足度調査、広報誌の発行を担当いたします。現在、入退院連絡に加え、入院後１週間を経過した患者さまの病状、手術後の経過、救急外来受診後の経過を記した症状・手術経過連絡書を紹介元にお届けしております。

室長：武　淳一郎（兼務）、原田　和明

医療安全管理室

院内の医療安全、感染管理、褥瘡管理を主に、院内講習会、患者さまの入退院に関する医療施設との連絡・調整や患者満足度調査を担当しています。まさに、院内の医療安全、感染管理の中枢として昼夜、頑張っております。

室長：大坪恵利子（師長）、地藏小百合

医療情報企画室

院内のＩＴ化の実践部隊です。院内における総合診療情報システムの開発・管理を担当しています。現在、診療業務支援システム等に加え、会員医療施設との情報連携を図る「医療連携支援システム」や会員医療施設と当院との総合的な患者管理を視野に入れた「患者等情報総合管理システム」の構築を計画、本来の医師会病院の役割であるところの会員医療施設と医師会病院が患者を共有した医療連携の展開を目指しています。さらに臨床検査センターのシステム保守点検にも出向しています。また、現在、病院機能評価受審に向け職員一丸となって作業を進めていますが、その舵取りを担当しています。

室長：中田　敏久、原田佳代子、楠本　真一、
室屋　昭典、小村　　寛、谷口　広志

診療録管理室

開院以来のすべての診療録を保管・管理しています。急性期病院として不可欠な診療録の管理を行うと同時に、診療録閲覧室の管理、国際疾病大分類ICDコード処理等、診療を支援しています。なお、診療録管理室は新館５階で業務を行っています。

室長：田島　孝二、榎園ひとみ

以上、医療支援部をご紹介させていただきました。有村運営管理センター長を中心に一丸となって活動していきたいと考えております。

皆様のご支援・ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

会員専用控室を設置いたしました

今まで当院に会員専用の控室がなかったため、会員の先生方には大変ご不便をおかけしておりましたが、このたび新館５階（県庁側）に会員専用控室を２部屋設置いたしました。

机・椅子・ロッカー・白衣等を準備しておりますので、共同指導や手術等に来院される際にお気軽にご利用ください。

○ご利用方法
本館１階受付にお申し出ください。係がご案内いたします。

○ご利用時間
午前８時30分～午後５時

医療連携に関するアンケート結果について

今回、当院と会員医療施設との連携強化および医師会病院の今後のあり方等について参考とさせていただく目的で、本年５月に市医師会の会員医療施設長あてに「医療連携に関するアンケート」をお願いいたしました。

回収まで３週間という短い期間でありましたが、対象医療施設 546 施設中、294 施設からご回答（回答率 53.8％）をいただきました。

ここに集計結果を掲載させていただきますので、お目通しくださるようお願いいたします。

なお、このアンケート結果は、当院の院内医療情報システムに掲載し、患者さんの退院支援として活用させていただいております。

ご協力いただき誠にありがとうございました。

医療連携室長　武　淳一郎

対象施設数	546 施設（平成 17 年５月１日現在）
回答施設数	294 施設（回答率：53.8％）

2．病床数

	一般病床	療養病床
1 床～　50 床	101 施設	59 施設
51 床～ 100 床	14 施設	11 施設
101 床～ 150 床	2 施設	1 施設
151 床～ 200 床	4 施設	3 施設
201 床～ 250 床	1 施設	1 施設
251 床以上	3 施設	
合　計	5,296 床	2,945 床

3．回復期リハビリの有無

有	35 施設
無	259 施設

4．介護保健施設併設の有無

有	45 施設
無	249 施設

5．訪問看護ステーション併設の有無

有	22 施設
無	272 施設

1．診療科目（複数選択あり）

内科	155 施設	52.7%
外科	64 施設	21.8%
整形外科	46 施設	15.6%
リハビリテーション科	71 施設	24.1%
消化器内科	81 施設	27.6%
循環器内科	44 施設	15.0%
神経内科	24 施設	8.2%
呼吸器科	34 施設	11.6%
放射線科	38 施設	12.9%
小児科	36 施設	12.2%
皮膚科	20 施設	6.8%
泌尿器科	13 施設	4.4%
眼科	20 施設	6.8%
耳鼻咽喉科	21 施設	7.1%
麻酔科	21 施設	7.1%
脳神経外科	9 施設	3.1%
精神科	12 施設	4.1%
神経科	4 施設	1.4%
産科	17 施設	5.8%
婦人科	23 施設	7.8%
肛門科	21 施設	7.1%
形成外科	4 施設	1.4%
リウマチ科	29 施設	9.9%
心臓血管外科	3 施設	1.0%
呼吸器外科	4 施設	1.4%
小児外科	5 施設	1.7%
アレルギー科	6 施設	2.0%
心療内科	13 施設	4.4%
気管食道科	3 施設	1.0%
美容外科	2 施設	0.7%
その他	14 施設	4.8%

6．気管内挿管患者の引き受けは可能ですか

可	42 施設
不可	252 施設

7．気管切開患者の引き受けは可能ですか

可	73 施設
不可	221 施設

8．中心静脈栄養管理の可否について

可	81 施設
不可	213 施設

9．外来化学療法の可否について

可	95 施設
不可	198 施設
検討中	1 施設

10. その他（医師会病院への意見・要望等）

1　24時間体制でやってください。

2　退院後の比較的軽度な患者さんはお引き受けいたします。

3　耳鼻咽喉科を作ってほしい。

4　24時間疾患に関係なく救急患者の受け入れ体制を作ってほしい。

5　療養病床を併設しましたら、一般病床まで介護を要する患者さんに占められ、回転が非常に悪くなり収益にも影響する位です。
　療養型を併設したのは誤りかと反省しています。

6　医師会のためによく頑張って下さっていると思います。

7　特殊な診療科を増設すべきです。例えば形成外科などは、需要は多いと考えます。市立病院の形成外科は親元である女子医大の形成外科よりも症例は多いということですし、鹿大も形成外科の患者は市立病院へ紹介しているということです。形成外科の増設に伴う設備費は小さいものです。スタッフは医師２名（１名は研修医）からで十分です。

8　医師会病院は呼吸器専門の医師がいないので、肺炎やCOPDの急性増悪の患者の紹介は控えたほうがいいのでしょうか？

9　医師会病院の主治医と連絡がとれないことが多い。院外主治医から電話しても検査中、手術中といって連絡が直接とれない。あとで連絡させるとか対応策を考えていただきたい。

10　出来る限り転院の受け入れを考えておりますが、患者様の関係（空床のない場合）にて受け入れが遅くなることがあるかもしれません。誠に申し訳ありません。

11　高齢化に際し喘息・肺炎併発が増加しており、呼吸器科の増設をお願いしたい。

12　緊急患者の場合は、いつでも引き受けて欲しい。その時はどこへ（電話・FAXなど）連絡したらよいでしょうか？

13　地域医療に密着した医療に当たって医師会病院に多大なご支援を得ております。今後とも24時間体制でのご協力をお願いします。

14　ベッドが無いとのことで数回断られている。緊急時は何とか受け入れてほしいです。

15　当院から医師会病院へ紹介依頼した患者については引き受けていただいています。

16　脳外科、整形外科の増科

17　ご指導いただければある程度のことはできると思います。あらかじめ受け入れ可能かどうか情報をいただきたい。

18　今後も自殺企図（多剤服用）でお願いするケースがあると思います。よろしくお願いいたします。

19　整形外科がないため、接点がほとんどなく身近に感じません。重症等は生協病院にお願いすることがほとんどです。中～軽症は、近くの有床診療所・病院に送っています。

20　患者の依頼を断られることが多い様に思う。

21　貴院に整形外科を増科していただければ助かります。

新入職員（新任医師）紹介

外科部長

＜プロフィール＞

（H 17.6.1 ～）

名　前　　石崎　直樹
診療科　　外科
出身県　　鹿児島県
出身大学　熊本大学（昭和 58 年卒）
前勤務先　薩摩郡医師会病院
趣　味　　魚釣り（船釣り）

16 年ぶりの鹿児島市医師会病院勤務です。
よろしくお願いします。

麻酔科部長

＜プロフィール＞

（H 17.7.1 ～）

名　前　　山口　俊一郎
診療科　　麻酔科
出身県　　鹿児島県
出身大学　鹿児島大学（平成元年卒）
前勤務先　鹿児島大学病院
趣　味　　鉄ちゃん・落語
体重を落とすこと

４年前に４年間お世話になりましたが、再度帰って参りました。当院に赴任してまだ１カ月余りですが、スタッフの医療に対する熱意をひしひしと身に感じております。医師会病院に復職できたことに本当に幸せを感じております。

ご指導、ご助言を賜りつつ、麻酔科医として皆様方のお役に立つべく努力して参る所存ですので、今後共よろしくお願い申し上げます。

循環器内科　医長

＜プロフィール＞

（H 17.7.1 ～）

名　前　　小畑　八郎
診療科　　循環器内科
出身県　　鹿児島県
出身大学　福岡大学（平成元年卒）
前勤務先　鹿児島市立病院
趣　味　　犬（ダックスフンド）との散歩・熱帯魚

厄年を無事クリアーできたと思っていましたが、
四十肩になっている事に最近気が付きました。

外科　医長

＜プロフィール＞

（H 17.7.1 ～）

名　前　　島元　裕一
診療科　　外科
出身県　　鹿児島県
出身大学　長崎大学（平成７年卒）
前勤務先　鹿児島大学病院
趣　味　　スポーツ観戦・読書

粛々と業務に邁進するつもりです。

鹿児島市医師会病院　連携室だより　No.1
発行日：平成 17 年８月 10 日　（年３回　４・８・12 月発行）
発行者：〒 890 － 0064　鹿児島市鴨池新町７番１号
鹿児島市医師会病院　院長　山口　淳正
担　当：医療支援部　医療連携室
ＴＥＬ：099 － 254 － 1125（代表）
ＴＥＬ：099 － 254 － 1121（連携室直通）
ＦＡＸ：099 － 254 － 1308（連携室直通）
ホームページ：http://www.minc.ne.jp/kasiihp/
ご意見などございましたら、お気軽にご連絡ください。